



# 第10回 長崎大学病院 ICLSコース報告書



長崎大学病院は、救急医療教育の一環として、全研修医の日本救急医学会認定『ICLSアシスタントインストラクター』資格取得を目指しております！

**平成28年2月13日(土)開催**

共催：長崎シミュレーション教育研究会  
長崎大学病院 医療教育開発センター  
救急医療教育室  
協力：日本光電九州株式会社

## コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

## ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実にこなうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

## 実施結果

受講生13名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。  
また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター2名、アシスタントインストラクター5名)計10名で指導を行い、2ブースを問題なく運営した。

※スタッフ詳細はP.4



◆実施内容◆

開催日時	平成28年2月13日(土) 9:20～17:05		
受講者数	13名		
対象	初期研修医、医師、薬剤師、救急救命士		
場所	長崎大学病院 シミュレーションセンター、リハビリ室		
<b>スケジュール</b>			
		グループA	グループB
9:00～9:20	0:20	受 付	
9:20～9:30	0:10	オリエンテーション	
9:30～10:05	0:35	BLS+AED	
10:05～10:15	0:10	休憩・移動	
10:15～11:15	1:00	気道管理	モニター
10:15～10:25	0:10	休憩・移動	
11:25～12:25	1:00	モニター	気道管理
12:25～13:15	0:50	昼 食	
13:15～13:20	0:05	BLS・ALSデモンストレーション	
13:20～14:30	1:10	チーム蘇生	チーム蘇生
		VF/VT	VF/VT
14:30～14:40	0:10	休 憩	
14:40～15:25	0:45	non VF/VT	non VF/VT
15:25～15:40	0:15	休憩・移動	
15:40～16:40	1:00	メガコード	メガコード
16:40～17:05	0:15	終了式・修了証授与式	

## <受講者>

	名前	年次	所属
グループA	--- ---	2	長崎大学病院
	--- ---	1	長崎大学病院
	--- ---	薬剤師	長崎大学病院
	--- ---	3	長崎大学病院
	--- ---	1	長崎大学病院
	--- ---	救急救命士	長崎市北消防署 琴海出張所
	--- ---	1	長崎大学病院

グループB	--- ---	1	長崎大学病院
	--- ---	3	長崎大学病院
	--- ---	9	長崎大学病院
	--- ---	1	長崎大学病院
	--- ---	救急救命士	長崎市中心消防署
	--- ---	3	長崎大学病院

## <スタッフ>

役割	名前	所属
コースディレクター	長谷 敦子	医療教育開発センター／救急医療教育室
サブディレクター	柴田 英貴	消化器内科
インストラクター	吉村 聡志	循環器内科
インストラクター	荒木 利卓	総合診療科／長崎医療センター
アシスタントインストラクター	高木 理博	熱研内科
アシスタントインストラクター	小森 悠二	看護部／5階西病棟
アシスタントインストラクター	村上 亨	医療教育開発センター(研修医)
アシスタントインストラクター	山口 圭太	医療教育開発センター(研修医)
アシスタントインストラクター	本田 智治	国際医療センター2
事務	花井 寿々子	医療教育開発センター／救急医療教育室

### <A.気道管理／B.モニター・除細動>

A: 荒木先生、高木先生、村上先生、山口先生

B: 吉村先生、小森看護師、本田看護師

## ◆アンケート◆ 受講者の声

- 蘇生のアルゴリズムを体験することで、実際の場のイメージができました。
- ハリーコールの時に何かできることがあるかもしれないので、積極的に行こうと思うようになった。
- 普段、救急の現場からは離れて長くなったので、良い風習になったと思います。
- BLSやAED、除細動器の使用など頭で理解できていたのを、すぐに行動に移せるようになった。
- 普段、院外での活動のため、院内処置を知ることができた。
- 突然の心肺停止という緊急時の対応は練習する機会がないので、専門的に一から学ぶことができた。さらにチームとして実践することで、大きな自信へつながった。
- 原因検索を行いながらのCPRが出来るようになったと思います。原因が分かるかどうかは別ですが...
- 院内の講習会や、研修医の時の救急外来でCPAの経験はあったが、今回のICLSで再確認でき、しっかりと次回から対応できそうだった。
- ハリーコールにダッシュできるようになりました。
- 今まで、指示を受けるのみであったが、今後は指示を出す様にもなれた。
- 久しぶりのデモンストレーションでCPAに対して自信がついた。CPAに対して逃げずに対応したいと思う。
- BLS、AEDでショックを行うまでしかやることがなかったので、それ以降の取るべき行動を学べて救命救急に少し自信がついた。



## ◆アンケート◆ スタッフの声

### 1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- 緊張感を持って取り組んでいた。
- みなさん積極的に参加し、学ぶ意欲が強く感じられた。5名
- 他職種かつ、研修医以外の方もいてモチベーションは高かった。
- 一部、弱気な研修医も、後に前向きとなりえた。
- 人によっては差がありましたが、最後はよく頑張っていました。

### 2) 予備知識(予習含む)はどうだったか？

- 上級医や救命士の知識は高かった。
- 薬剤投与等に関しては、知識があいまいでした。
- 皆さよく予習をしていた。4名
- 不十分な人と十分な人がいた。

### 3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- 熱心だった。
- いかに受講者に楽しんでもらえるように工夫して説明、アシストをしていた。
- 知識、経験に富み、親切に教えて頂きました。教え方を学ぶことができました。
- ポイントを押さえながらインストラクションが行えていた。
- お互いに足りない部分を補い良いフィードバックできてよかった。
- 運営に積極的に携わって下さり、大変助かりました。
- 一人ひとり目標を持って臨まれていて、モチベーションの高さを感じた。

### 4) 今後について、ひとこと

- 継続して欲しい。
- また、参加させて頂きます。
- ぜひともインストラクターとして参加していきたい。

### ●改善点●

- 機材に対する知識がもう少し必要。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ハートシム、操作用PC	3	1台は予備
レサシアン	4	各ブースに2
バックバルブマスク	3	1台は予備
AED	4	複数機種
気道管理トレーナー	2	
モニター付き除細動器	2	二相性 2 (循環器・日本光電から拝借)
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml	2	
バイトブロック	1	
吸引チューブ	1	
エアウエイ	1	
経鼻エアウエイ	1	
聴診器	1	
ポケットマスク		
喉頭鏡(4.0)	1	
喉頭鏡柄		
チューブ固定具	1	
酸素マスク	1	
酸素カニューラ	1	
挿管チューブ	1	
スタイレット	1	
CO2チェッカー	1	
マギール鉗子	1	
固定用テープ		
点滴	2	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	2	各ブースに1つずつ
ワゴン	2	
聴診器	2	持ってきてもらう
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	2	
ホワイトボードマーカー4色	8	
ストップウォッチ	2	
メトロノーム	1	
延長コード	4	

**長崎大学病院  
医療教育開発センター  
救急医療教育室**

〒852-8501

長崎市坂本1丁目7番1号

電話 (095) 819-7881

FAX (095) 819-7882

作成:救急医療教育室 事務 花井